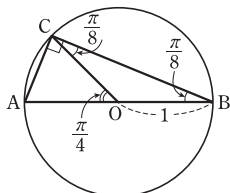


加法定理を用いずに倍角の公式を導く方法について

ゆいかわ よしあき
結川 義明

§1. はじめに

$\sin \frac{\pi}{8}$ の値を半角の公式を用いず、余弦定理と単位円を使って次のような方法で求めてみた。



$$AC^2 = OA^2 + OC^2 - 2 \cdot OA \cdot OC \cdot \cos \frac{\pi}{4}$$

$$= 1 + 1 - 2 \cdot \frac{\sqrt{2}}{2}$$

$$= 2 - \sqrt{2}$$

$$AC > 0 \text{ より } AC = \sqrt{2 - \sqrt{2}}$$

$$\text{したがって } \sin \frac{\pi}{8} = \frac{AC}{AB} = \frac{\sqrt{2 - \sqrt{2}}}{2}$$

同様の方法で、加法定理を用いずに倍角の公式が導けることを発見した。ここでは、その方法を紹介する。

§2. 2倍角の公式を求める方法

(1) 余弦に関する2倍角の公式について

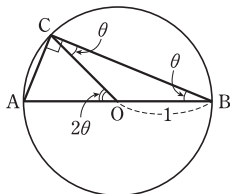


図1

$$AC^2 = OA^2 + OC^2 - 2 \cdot OA \cdot OC \cdot \cos 2\theta$$

$$= 1 + 1 - 2 \cdot \cos 2\theta$$

$$= 2 - 2 \cos 2\theta$$

$$AC > 0 \text{ より } AC = \sqrt{2 - 2 \cos 2\theta}$$

ここで、 $\triangle ABC$ において

$$\sin \theta = \frac{AC}{AB} = \frac{\sqrt{2 - 2 \cos 2\theta}}{2} \text{ より}$$

$$2 - 2 \cos 2\theta = (2 \sin \theta)^2$$

$$-2 \cos 2\theta = 4 \sin^2 \theta - 2$$

$$\cos 2\theta = 1 - 2 \sin^2 \theta$$

$$= 2 \cos^2 \theta - 1$$

が得られる。

(2) 正弦に関する2倍角の公式について

図1より、 $\triangle OAC + \triangle OBC = \triangle ABC$ …①

ここで、

$$\triangle OAC = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \cdot \sin 2\theta = \frac{1}{2} \sin 2\theta$$

$$\triangle OBC = \frac{1}{2} \cdot 1 \cdot 1 \cdot \sin(\pi - 2\theta) = \frac{1}{2} \sin 2\theta$$

$$\triangle ABC = \frac{1}{2} \cdot 2 \sin \theta \cdot 2 \cos \theta = 2 \sin \theta \cos \theta$$

よって、①より

$$\frac{1}{2} \sin 2\theta + \frac{1}{2} \sin 2\theta = 2 \sin \theta \cos \theta$$

$$\sin 2\theta = 2 \sin \theta \cos \theta$$

が得られる。

同様の方法で、 n が偶数の場合の n 倍角の公式も導くことができる。

§3. 3倍角の公式を求める方法

図1において、点Cから辺ABに平行な線分を引き、単位円との交点をDとする。また、線分ADと線分OCの交点をPとする。 $\angle APC = 3\theta$ となる。

(図2)

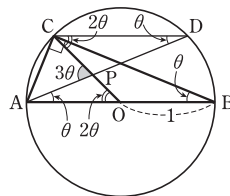


図2

△ACD に正弦定理を適用すると、

$$\frac{CD}{\sin\left(\frac{\pi}{2}-2\theta\right)} = \frac{AC}{\sin\theta}$$

AC=2sinθ であるから、

$$CD=2\cos 2\theta$$

また、△APO∞△DPC より

$$CP:OP=CD:OA$$

$$CP\cdot OA=(OC-CP)\cdot CD$$

OA=OC=1 より

$$CP = \frac{CD}{1+CD} = \frac{2\cos 2\theta}{1+2\cos 2\theta}$$

同様に

$$AP = \frac{AD}{1+CD} = \frac{2\cos\theta}{1+2\cos 2\theta}$$

〈余弦に関する 3 倍角の公式について〉

△APC に余弦定理を適用すると

$$\begin{aligned} \cos 3\theta &= \frac{AP^2+CP^2-AC^2}{2AP\cdot CP} \\ &= \frac{\left(\frac{2\cos\theta}{1+2\cos 2\theta}\right)^2 + \left(\frac{2\cos 2\theta}{1+2\cos 2\theta}\right)^2 - (2\sin\theta)^2}{2\cdot\frac{2\cos\theta}{1+2\cos 2\theta}\cdot\frac{2\cos 2\theta}{1+2\cos 2\theta}} \\ &= \frac{(2\cos\theta)^2 + (2\cos 2\theta)^2 - (2\sin\theta)^2\cdot(1+2\cos 2\theta)^2}{8\cos\theta\cdot\cos 2\theta} \\ &= \frac{4\cos 2\theta + 4\cos^2 2\theta - 16\sin^2\theta\cos 2\theta - 4\sin^2\theta\cos^2 2\theta}{8\cos\theta\cdot\cos 2\theta} \\ &= \frac{(1-4\sin^2\theta)(1+\cos 2\theta)}{2\cos\theta} \\ &= \{1-4(1-\cos^2\theta)\}\cdot\cos\theta \\ &= 4\cos^3\theta - 3\cos\theta \end{aligned}$$

が得られる。

〈正弦に関する 3 倍角の公式について〉

図 2 より、△APC+△APO=△OAC …②

ここで、

$$\begin{aligned} \text{左辺} &= \frac{1}{2}\cdot AP\cdot CP\cdot\sin 3\theta + \frac{1}{2}\cdot AP\cdot OP\cdot\sin(\pi-3\theta) \\ &= \frac{1}{2}\cdot AP\cdot OC\cdot\sin 3\theta \\ &= \frac{\cos\theta\cdot\sin 3\theta}{1+2\cos 2\theta} \end{aligned}$$

$$\text{右辺} = \frac{1}{2}\cdot OA\cdot OC\cdot\sin 2\theta = \sin\theta\cos\theta$$

②より

$$\begin{aligned} \frac{\cos\theta\cdot\sin 3\theta}{1+2\cos 2\theta} &= \sin\theta\cos\theta \\ \sin 3\theta &= \sin\theta(1+2\cos 2\theta) \\ &= \sin\theta\{1+2(1-2\sin^2\theta)\} \\ &= 3\sin\theta - 4\sin^3\theta \end{aligned}$$

が得られる。

§4. おわりに

通常、2 倍角の公式は、数学Ⅱで学習する三角関数の中で加法定理の応用として指導される。ここで紹介した方法は、数学Ⅰの学習内容で求められるものである。

3 倍角の公式については、やや計算力を要するところはあるが、2 倍角の公式については、余弦定理や三角形の面積の公式から求めることができる。数学Ⅰの既習事項の確認として、2 倍角の公式を導かせても面白いのではないかと考える。

《参考文献》

- [1] 「改訂版 数学Ⅰ」数研出版
- [2] 「数学Ⅱ」数研出版

(埼玉県立豊岡高等学校)